

Sentinel RMS License Manager

FAQ

株式会社エリジオン

2021年 7月

目次

1. はじめに	1
2. ライセンス設定準備 / 環境について	2
3. WlmAdmin の操作 / ライセンス登録	4
4. ライセンスサーバーの運用	8
5. クライアントからのライセンス使用	9
5.1. フローティングライセンス使用時	9
5.2. コミュータライセンス(ライセンス持ち出し機能)使用時	12
6. その他	14
7. Appendix	16

1. はじめに

このドキュメントでは、エリジオン製品が利用するライセンスサーバーの設定および運用に関してよくお問い合わせをいただく内容と、その内容に対する回答をまとめています。

Sentinel RMS License Manager の基本的な導入および設定の方法については、クイックスタートガイド (LicenseServer_QuickStartGuide_ja.pdf) を参照してください。

以下のサイトで動画も公開していますので併せて参照してください。

https://www.elysium-global.com/ja/support/license_settings_movie/

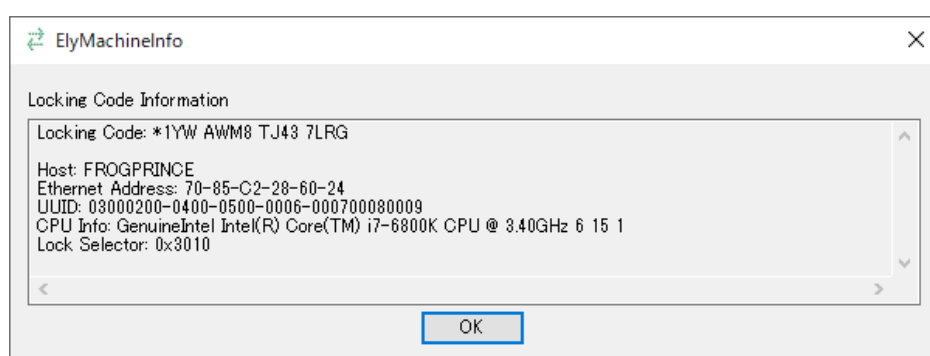
2. ライセンス設定準備 / 環境について

Q1. Sentinel RMS License Manager の動作環境を教えてください。

Sentinel RMS License Managerのバージョンによって異なります。ご使用のバージョンのクイックスタートガイド (LicenseServer_QuickStartGuide_ja.pdf) をご参照ください。

Q2. ロッキングコード (Locking Code) とはなんですか。

ライセンスサーバーの動作するコンピューターの情報を特定するための 16 桁の文字列です。対象のコンピューター上で "ElyMachineInfo.exe" を実行することで確認できます。 ロッキングコードは「MACアドレス」「CPU情報」「UUID」の情報をもとに作成されています。ライセンスサーバーで管理するライセンスを有効に保つためには、これらの情報が変更されないように運用していただく必要があります。



Q3. Sentinel RMS License Manager を仮想環境で使用することはできますか。

可能です。ただし、ライセンスを有効に保つためには「MAC アドレス」「CPU 情報」「UUID」の3点の情報が変更されないように運用していただく必要があります。詳細は別ドキュメント「仮想環境でのライセンスサーバー運用について.pdf」をご参照ください。

Q4. Sentinel RMS License Manager がサポートしている仮想化テクノロジーは何ですか。

下記の仮想化テクノロジーについて、ベンダーにより動作が検証されています。

- VMWare Workstation v7.0
- VMWare ESXi v4.0
- Virtual Box v3.1
- Virtual PC 2007 v6.0
- QEMU v0.11
- Parallels Desktop 4
- XEN Hypervisor 3.2
- Microsoft Hyper-V Server 2008 R2
- KVM 76
- Citrix XenServer 5.6

Q5. ライセンスサーバーとしたいコンピューターに他社製品の Sentinel RMS License Manager が導入済みの場合どうすればよいですか。

基本的には別のコンピューターを用意してください。他社製品用の Sentinel RMS License Manager およびライセンスとの共存は避けていただくことを推奨します。

Q6. 他社提供の Sentinel RMS License Manager とエリジオン提供の Sentinel RMS License Manager は同一コンピューター上で共存可能ですか。

同一コンピューターに複数の Sentinel RMS License Manager をインストールすることはできません。

Q7. 他社提供の Sentinel RMS License Manager に、エリジオン製品のライセンスを登録して運用することは可能ですか。

他社製品の動作や仕様を把握しかねるため、サポートは致しかねます。

このケースでは、問題があった時にライセンス情報をクリーニングする等の処理ができなくなる可能性も考えられますのでご注意ください。

Q8. エリジオン提供の Sentinel RMS License Manager のみをインストールし、エリジオン製品のライセンスと他社製品のライセンスを両方管理することは可能ですか。

他社製品ライセンスを登録することが Sentinel RMS License Server の動作に影響を与えない限り、おそらく動作はするものと思われます。

他社製品側にも共存可否をご確認ください。また、事前に検証を行うことをお勧めします。

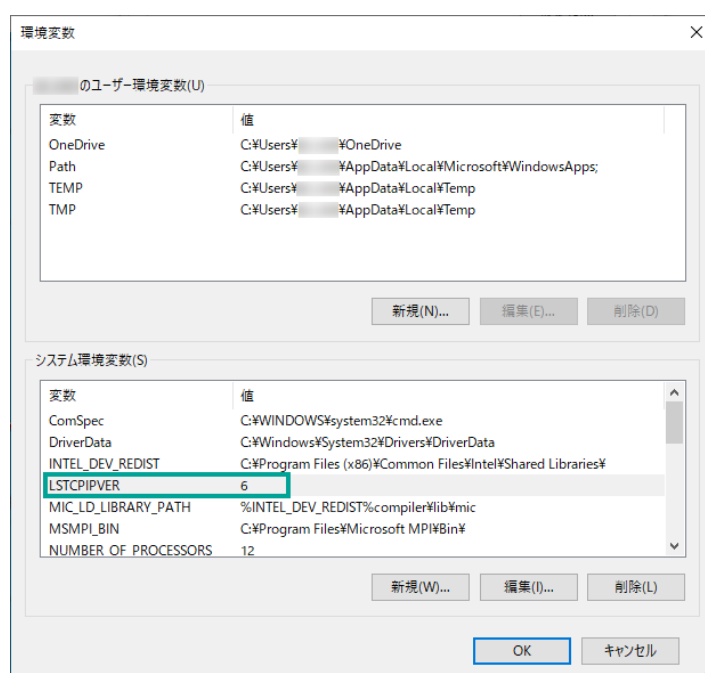
Q9. IPv6 環境で使用可能ですか。

使用可能です。クライアントコンピューターのシステム環境変数に以下の設定を追加してください。

変数名: LSTCPIPVER

変数値: 6

ユーザー環境変数ではなくシステム環境変数に設定する必要があります。ご注意ください。



3. WlmAdmin の操作 / ライセンス登録

Q1. ライセンスファイルの登録を試みると「Sentinel RMS Development Kit: Error [5]: Cannot talk to the license server on host "(hostname)". Server not running??」というエラーが表示されます。どうすればよいですか。

ライセンス登録を試みている対象のライセンスサーバー (Sentinel RMS License Manager) に接続できない場合にこのエラーが表示されます。以下の点を確認してください。

1. ライセンスサーバー (Sentinel RMS License Manager) が動作しているか確認してください。

Sentinel RMS License Manager がインストールされており、「Sentinel RMS License Manager」という名前のサービスの状態が「実行中」になっているか確認してください。サービスの状態が「実行中」以外の場合は、「サービス」画面で「Sentinel RMS LicenseManager」の行を選択して [サービスの開始] を実行するか、右クリックで表示されるメニューから [開始] を選択してサービスを起動してください。



以下の手順で「サービス」画面を表示できます。

- i. Windows キー + R キー を押し、「ファイル名を指定して実行」ダイアログを開きます。
- ii. "services.msc" と入力して [OK] ボタンをクリックします。

2. ライセンスサーバー (Sentinel RMS License Manager) が使用するポート番号を変更していないか確認してください。

ポート番号の変更方法は、[こちら](#)をご参照ください。

ポート番号を変更している場合、WlmAdmin 側でもポート番号を指定する必要があります。

- i. WlmAdmin を起動し、[Edit] > [Preference] を選択します。
 - ii. Server Port 欄にポート番号を入力し、[OK] ボタンを押します。
3. [Defined Server List] にライセンスサーバーの動作するコンピューターを IP アドレスで指定し、ライセンス登録をお試しください。
 - i. WlmAdmin を起動し、メニューから [Edit] > [Defined Server List] を実行します。
 - ii. Server 欄に IP アドレスを入力し [OK] ボタンを押します。
 - iii. メニューから [Edit] > [Preferences] を実行して、「Discover defined servers on startup」にチェックを入れ [OK] ボタンを押します。
 - iv. 「Defined Servers」から IP アドレスを選択し、ライセンスを登録します。
 4. 同様の手順で、[Defined Server List] にライセンスサーバーの動作するコンピューターを "localhost" として指定し、ライセンス登録をお試しください。

Q2. ライセンスファイルの登録を試みると「Sentinel RMS Development Kit: Error[150]: The specified lock code is invalid.」というエラーが表示されます。どうすればよいですか。

「ライセンス発行に使用されたロッキングコード」と「ライセンス登録を試みている対象コンピュータのロッキングコード」が異なっている場合に、このエラーが表示されます。以下の点を確認してください。

1. ライセンス登録を試みている対象のコンピュータが「ライセンス申請時にロッキングコードを取得したコンピュータ」と同一のコンピュータであるかを確認してください。
2. コンピュータのロッキングコードが変わっていないか確認してください。

ライセンス申請時にロッキングコードを取得した後、なんらかの理由でロッキングコードが変わってしまうと、ライセンス登録を行うことができません。"ElyMachineInfo.exe" を使用し、ライセンス登録を試みているコンピュータのロッキングコードが変わっていないかを確認してください。

ロッキングコードが変わっていた場合、「MAC アドレス」「CPU 情報」「UUID」の情報が変更されていないかを確認してください。変更されていた場合、元に戻すことができればロッキングコードも元に戻ります。

Q3. ライセンスファイルの登録を試みると「Sentinel RMS Development Kit: Error [143]: Failure in accessing the license file.」というエラーが表示されます。どうすればよいですか。

[To Server and its File] メニューからライセンスが正常に登録されると、ライセンスファイル (lservrc という名前の拡張子のないファイル) が作成されます。このライセンスファイルが作成および編集できない場合に、このエラーが表示されます。以下の点を確認してください。

1. サービス「Sentinel RMSLicense Manager」のログオンユーザーがライセンスファイル (lservrc) を作成および編集する権限があるかを確認してください。

ライセンスファイル (lservrc) は、通常は以下のパスに作成されます。

C:\Program Files (x86)\Common Files\SafeNet Sentinel\Sentinel RMS LicenseManager\WinNT\lservrc

サービス「Sentinel RMSLicense Manager」のログオンユーザーは、通常はローカルシステムアカウントとなっています。その場合、「SYSTEM」のアクセス許可を確認してください。

2. [To Server] メニューからライセンスを登録することで回避できるか確認してください。

ライセンスの登録方法を変更することにより問題を回避できる可能性があります。以下のメニューからライセンスの登録を行ってください。

[Add Feature] > [From a File] > [To Server]

[To Server] から登録した場合、ライセンスサーバーのメモリーにのみライセンス情報が保持されますので、ライセンスファイル (lservrc) の作成および編集に問題のある環境でもライセンスを登録することができます。この場合、ライセンスサーバーの再起動後にはライセンス情報は保持されていないので、再度ライセンス登録を行う必要があります。

Q4. ライセンスファイルの登録を試みると「Sentinel RMS Development Kit: Error [92]: The

given license code is invalid. Hence, it could not be added to the "(hostname)" license server.」というエラーが表示されます。どうすればよいですか。

ライセンスコード (登録を試みたライセンスファイルに記載されている文字列) が不正な場合に、このエラーが表示されます。以下の点をご確認ください。

1. 改行コードが「CR+LF」以外になっていないか確認してください。

エリジオンから発行されるライセンスファイル (elylic) の改行コードは「CR+LF」になっています。ライセンスファイルの授受において改行コードが変わってしまった場合、ライセンス登録でエラーとなります。ライセンスファイルの再送またはzip圧縮した上でファイル授受を行い、再度ライセンス登録をお試しください。

2. 古いバージョンの Sentinel RMS License Manager が導入されており、それに対してライセンス登録を試みていないか確認してください。

エリジオン製品のライセンス (elylic) は Sentinel RMS License Manager 8.5 以上にのみ登録可能です。

他社製品用に Sentinel RMS License Manager の 8.5 より前のバージョンが導入されており、それに対してライセンス登録を試みた場合、エラーとなります。

Q5. ライセンスファイルの登録を試みると「Sentinel RMS Development Kit: Error[93]: The given license code is already added to the (hostname) license server.」というエラーが表示されます。

登録を試みているライセンスコードが既に登録されている場合に、このエラーが出ます。
WlmAdmin でライセンスが正常に登録されていることを確認してください。

Q6. 「Subnet Servers」を選択すると「The system cannot retrieve the servers, there is no response to the broadcast.」というダイアログが表示されます。どうすればよいですか。

サブネット内にライセンスサーバー (Sentinel RMS License Manager) が見つからない場合にこのエラーが出ます。ライセンスサーバーのホスト名を「Defined Server List」に登録し、[Defined Servers] > (当該ホスト名) から操作を行ってください。

Q7. 登録したライセンスを消去することはできますか。

以下の手順で登録されているライセンスを消去することが可能です。実行するとライセンスファイル (lservrc) から情報も削除されます。

1. WlmAdmin を起動します。
2. WlmAdmin の左ペインから、削除対象のライセンスを選択します。
(当該サーバー名) > (ライセンスフィーチャー名) > [Licenses] > [Lic<数字>]
3. 削除対象のライセンス (Lic<数字>) を右クリックし、[Remove License from server and file] を選択します。

登録されている複数のライセンスを一度に消去したい場合は以下の手順にてご対応ください。



この作業には管理者権限が必要です。

1. ライセンスファイル (lservrc) をテキストエディターで開きます。通常は以下のパスに配置されています。
C:\Program Files (x86)\Common Files\SafeNet Sentinel\Sentinel RMS License Manager\WinNT\lservrc
2. 手動で該当するライセンスの記述を削除します。
3. ファイルを上書きして保存します。
4. ライセンスサーバーを再起動します。

4. ライセンスサーバーの運用

Q1. 使用するポート番号を変更できますか。

使用するポート番号は以下の手順で変更可能です。



変更を行うとライセンス持ち出し機能および "lsmon.exe" を使用できなくなります。

同じポート番号を使用する別のネットワークアプリケーションと競合する場合を除き、デフォルトのポート番号 (5093) を使用することを推奨します。

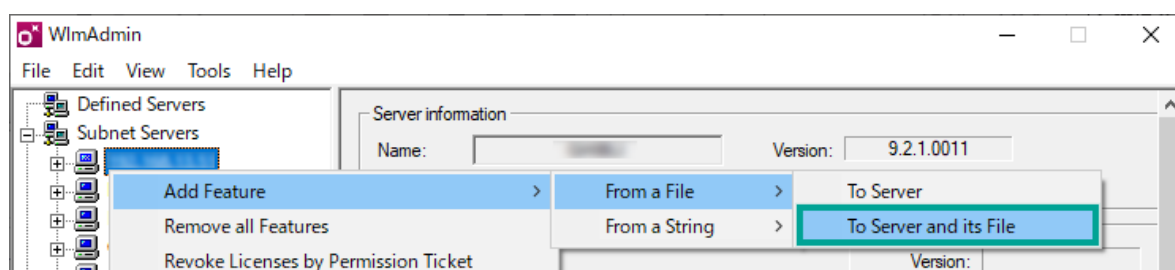
例) ポート番号を "12345" に変更する方法

1. ライセンスサーバーの動作するコンピューターのシステム環境変数に以下の変数を追加します。
変数名: LSPORT
変数値: 12345
2. ライセンスサーバーを再起動します。
3. WlmAdmin を起動し、[Edit] > [Preference] を選択します。Server Port 欄に「12345」と入力し [OK] ボタンをクリックします。
4. コマンドプロンプトから netstat -ano を実行し、12345/UDP で動作しているアプリケーションが Sentinel RMS License Manager であることを確認します。

Q2. 登録したライセンスが消えてしまいました。

ライセンスの登録方法によっては、ライセンスサーバー (Sentinel RMS License Manager) 再起動時にライセンス情報が保持されないことがあります。WlmAdmin を起動し、以下のメニューから再度ライセンスの登録を行ってください。

[Add Feature] > [From a File] > [To Server and its File]



5. クライアントからのライセンス使用

5.1. フローティングライセンス使用時

Q1. ライセンスが取得できず **InfiPoints / 3DxSUITE Editor** が起動しません。

ライセンスが取得できず **CADdoctor for NX** で **Checker / Healer** が実行できません。

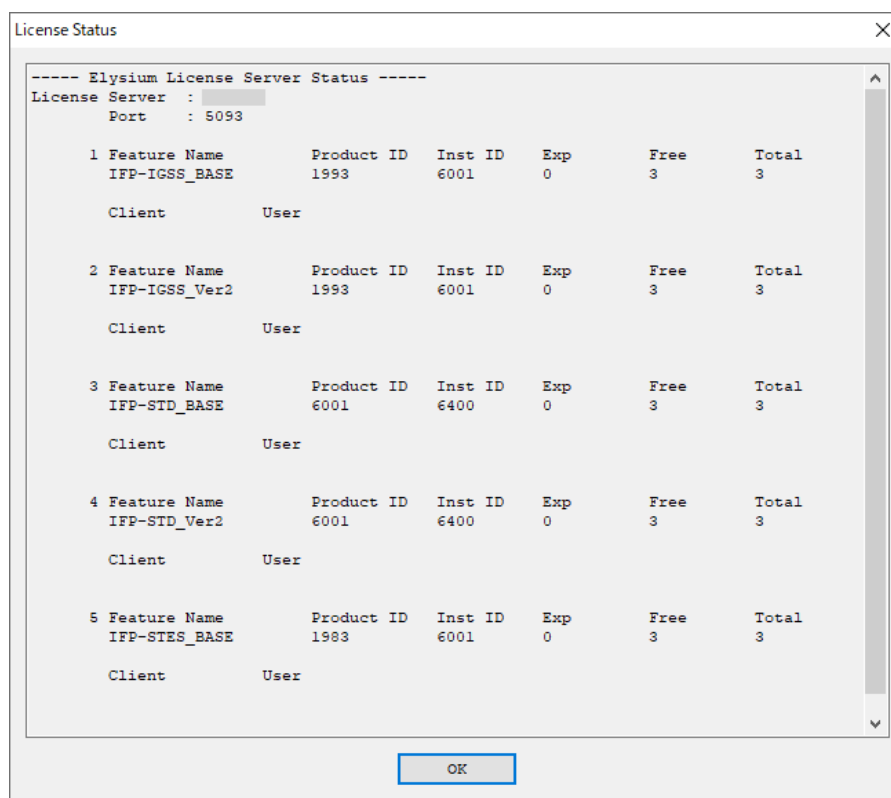
以下の点を確認してください。

1. ライセンスの指定が正しいか確認してください。

- 。「License Client Setting」ダイアログで Floating を選択しているか確認してください。
- 。「Server Name」にはライセンスサーバーのホスト名を指定してください。IP アドレスでの指定も可能です。
- 。「Port Number」は通常 5093 です。ライセンスサーバー側で使用するポート番号を変更している場合は、変更した値を指定してください。

2. 指定しているライセンスサーバー (Sentinel RMS License Manager) に、取得できるライセンスがあるか確認してください。

[License Status] ボタンを押すと、ライセンスサーバーと通信できる場合は登録されているライセンスフィーチャーの一覧が表示されます。「License Status」ダイアログでは登録されているライセンスのフィーチャー名 (Feature Name)、使用期限 (Exp)、空きライセンス数 (Free)、全ライセンス数 (Total)、使用中のクライアントおよびユーザー名 (Client / User) を確認することができます。



License Status ダイアログで以下の点を確認してください。

- 。アプリケーションの起動に必要なライセンスが登録されているか確認してください。登録されていない場合、ライセンスサーバーの動作するコンピューター上にて WlmAdmin からライセンスの登録を行ってください。
アプリケーションの起動に必要なライセンスは下記のとおりです。

製品	Feature Name
3DxSUITE Editor	ES-FS-CDR
InfiPoints	IFP-STD_BASE, IFP-STD_Ver<数字>
CADdoctor for NX	CDNX-<数字>-BA, CDNX-<数字>-CH, CDNX-<数字>-HE

- 。アプリケーションの起動に必要なライセンスに空きがあるか確認してください。他ユーザーが既にライセンスを使用中の場合は、時間を空けてライセンスが解放された後、再度アプリケーションの起動をお試しく下さい。
 - 。ライセンスの有効期間内であるか確認してください。Exp 欄の日付で有効期限を確認することができます。0 の場合は無期限のライセンスですので、ライセンス有効期間内となります。
 - 。「License Status」ダイアログは表示されるがライセンスフィーチャーの情報が表示されない場合は、ライセンスサーバーにライセンスが登録されているかを確認してください。
3. 「License Status」ダイアログが表示されない場合は、以下の点を確認してください。
- 。指定したライセンスサーバーが動作しているかを確認してください。
指定したコンピューターにライセンスサーバーがインストールされており、「Sentinel RMS License Manager」という名前のサービスが「実行中」状態になっているか確認してください。
WlmAdmin を使用できる場合は、WlmAdmin からライセンスサーバーの状況を確認することも可能です。
 - 。クライアントコンピューター (3DxSUITE Editor や InfiPoints の起動を試みているコンピューター) から、ライセンスサーバーの動作するコンピューターをホスト名で参照できるかを確認してください。(参考: [名前解決](#))
名前解決できない場合、「Server Name」にライセンスサーバーの動作するコンピューターの IP アドレスを指定してアプリケーションの起動をお試しく下さい。
 - 。クライアントプログラムから UDP 5093 番ポートを使用してライセンスサーバーと通信を行います。ライセンスサーバーでこのポートが開いているか確認し、開いていない場合は [ポートを開放](#)してください。
4. 上記の点がすべて問題ないにも関わらず、クライアントアプリケーションが起動できない場合は、以下の情報を添えてサポート窓口へお問い合わせください。
- 。ライセンスサーバー (Sentinel RMS License Manager) のバージョン
 - 。クライアントアプリケーション (InfiPoints / 3DxSUITE Editor / CADdoctor for NX) のバージョン

- 。行った操作と、その結果としてのプログラムの挙動、表示されたメッセージなどの詳細
- 。クライアント側のログファイル
クライアントコンピュータで以下の環境変数を設定し、アプリケーションの起動および実行をすると、ログファイルが作成されます。
 - 環境変数名： ELY_RMS_DBG_FILE
値の例： C:\Temp\rmsdbg.txt
 - 環境変数名： ELSSENT_ERROR_FILE
値の例： C:\Temp\rmsdbg.txt
(ELY_RMS_DBG_FILE と ELSSENT_ERROR_FILE には同じログファイルを指定することを推奨します。)

Q2. 3DxSUITE SmartLauncher の変換リストに「エリジオンライセンスサーバーに接続できない(-11)」と表示されました。

ライセンスサーバーの動作するコンピューター自体を参照できないか、ライセンスサーバーのプログラムと通信できない場合にこのエラーが出ます。以下の点を確認してください。

1. 3DxSUITE ユーザー共通設定 / 3DxSUITE ローカルユーザー設定の[ライセンス]タブでライセンスサーバーとライセンスポートの設定が正しいかを確認してください。
 - 。「ライセンスサーバー」にはライセンスサーバーのホスト名を指定してください。IP アドレスでの指定も可能です。
 - 。「ライセンスポート」は通常 5093 です。ライセンスサーバー側で使用するポート番号を変更している場合は、変更した値を指定してください。
2. クライアントコンピューター (SmartLauncher で変換を実行したコンピューター) から、ライセンスサーバーの動作するコンピューターをホスト名で参照できるかを確認してください。(参考: [名前解決](#))
名前解決できない場合、「ライセンスサーバー」にライセンスサーバーの動作するコンピューターの IP アドレスを指定して変換をお試ください。
3. 指定したライセンスサーバーが動作しているかを確認してください。

指定したコンピューターにライセンスサーバーがインストールされており、「Sentinel RMS License Manager」という名前のサービスが「実行中」状態になっているか確認してください。WlmAdmin を使用できる場合は、WlmAdmin からライセンスサーバーの状況を確認することも可能です。

4. クライアントプログラムから UDP 5093 番ポートを使用してライセンスサーバーと通信を行います。ライセンスサーバーでこのポートが開いているか確認し、開いていない場合は[ポートを開放](#)してください。

Q3. 3DxSUITE SmartLauncher の変換リストに「エリジオンライセンスがない(-12)」と表示されました。

1. 指定しているライセンスサーバー (Sentinel RMS License Manager) に、必要なライセンスが登録されているか確認してください。

2. CAD Exporter (enf2xxx) でこのエラーが表示された場合、変換設定で PMI 変換を行うよう設定していないかを確認してください。CAD Exporter の PMI 変換にはオプションライセンスが必要となります。

Q4. 3DxSUITE SmartLauncher の変換リストに「エリジオンライセンスが不足(-13)」と表示されました。

アプリケーションの起動に必要なライセンスに空きがあるか確認してください。

他ユーザーが既にライセンスを使用中の場合は、時間を空けてライセンスが解放された後、再度変換をお試しく下さい。

Q5. クライアントアプリケーションの異常終了時にライセンスが使用不可になります。

クライアントアプリケーションの異常終了時には、アプリケーション側で正常にライセンスの解放処理が行えていないため、ライセンスが解放されるまでに数分程度かかります。

ライセンスサーバー (Sentinel RMS License Manager) の再起動を行うと、ライセンスが解放されます。実行するには、Windows の「サービス」ダイアログで「Sentinel RMS License Manager」の行を選択し [サービスの再起動] を実行するか、右クリックで表示されるメニューから [再起動] を選択します。

5.2. コミュータライセンス(ライセンス持ち出し機能)使用時

Q1. "WCommute.exe" でライセンスフィーチャーを指定し [Check Out] ボタンを押したところ、「Sentinel RMS Development Kit: Error [3]: Failed to resolve the server host (hostname).」というエラーが表示されました。どうすればよいですか。

ライセンスサーバー (Sentinel RMS License Manager) と持ち出しツール ("WCommute.exe") のバージョンが異なる場合にこのエラーが出ることがあります。

バージョンが一致しているかを確認し、一致していない場合は、バージョンをそろえた上で再度ライセンスの持ち出しを行ってください。

Q2. "WCommute.exe" でのライセンス持ち出し(Check Out)はできましたが、クライアントアプリケーション(InfiPoints / 3DxSUITE Editor)が起動しません。

以下の点を確認してください。

1. 「License Client Setting」ダイアログで Commuter を選択しているか確認してください。
2. 必要なライセンスフィーチャーを持ち出せているか確認してください。

[License Status] ボタンを押すとライセンスフィーチャーの一覧が表示されます。以下の点を確認してください。

- 。アプリケーションの起動に必要なライセンスがすべて持ち出しできているか確認してください。ライセンスの持ち出しができていない場合、ライセンス持ち出し機能ガイド (LicenseServer_CommuterGuide_ja.pdf) を参照し持ち出しの操作を行ってください。アプリケーションの起動に必要なライセンスは下記のとおりです。

製品	Feature Name
3DxSUITE Editor	ES-FS-CDR
InfiPoints	IFP-STD_BASE, IFP-STD_Ver<数字>

(* 必要な処理に応じてその他のライセンスも持ち出してください。)

- 。ライセンスの有効期間内であるか確認してください。Exp 欄の日付で有効期限を確認することができます。
- 3. ライセンスを持ち出す操作を行う前に、初期化の操作 ("lsinit.exe" の実行) を行ったか確認してください。
初期化を行っていない場合は、一旦ライセンスを返却し、初期化を行った後に再度持ち出し操作を行ってください。
- 4. 上記の点がすべて問題ないにも関わらず、InfiPoints / 3DxSUITE Editor が起動できない場合は、以下の情報を添えてお問い合わせください。
 - 。ライセンスサーバー (Sentinel RMS License Manager) のバージョン
 - 。クライアントアプリケーション (InfiPoints / 3DxSUITE Editor) のバージョン
 - 。行った操作と、その結果としてのプログラムの挙動、表示されたメッセージなどの詳細
 - 。クライアント側のログファイル
クライアントコンピュータで以下の環境変数を設定し、アプリケーションの起動および実行をすると、ログファイルが作成されます。
 - 環境変数名： ELY_RMS_DBG_FILE
値の例： C:\Temp\rmsdbg.txt
 - 環境変数名： ELSSENT_ERROR_FILE
値の例： C:\Temp\rmsdbg.txt
(ELY_RMS_DBG_FILE と ELSSENT_ERROR_FILE には同じログファイルを指定することを推奨します。)

Q3. 持ち出したライセンスを返却(Check In)できなくなりました。

ライセンスサーバーの IP アドレスは、ライセンスを持ち出す際とライセンスを返却する際に同一である必要があります。

可能な場合は、持ち出した際の IP アドレスに戻して返却を試してください。戻せない場合は、指定した日数が過ぎてライセンスが自動的に返却されるまでお待ちください。

DHCP を利用している環境では意図せず IP アドレスが変わる可能性があります。ライセンスサーバーについては事前に IP アドレスを固定して運用するようにしてください。

6. その他

Q1. ライセンスサーバーが動作するコンピュータの構成変更時に再申請等の手続きは必要ですか。

ロッキングコードは「MAC アドレス」「CPU情報」「UUID」の情報を元に作成されています。ライセンスサーバーの動作するコンピュータのハードウェア変更、または仮想マシンの設定変更や移設等の操作で、先述の情報が変わるような変更を行う場合、ロッキングコードが変わることになります。その場合、発行済みライセンスが無効になり、ライセンスの再発行が必要になります。再発行には費用が発生する可能性があります。詳細は別ドキュメント「仮想環境でのライセンスサーバー運用について.pdf」をご参照ください。

Q2. ライセンスサーバーが動作するコンピュータのホスト名を変更しても問題ないですか。

ホスト名のみの変更であればライセンスの再発行は不要です。以下を参考に設定を変更してください。

サーバー側

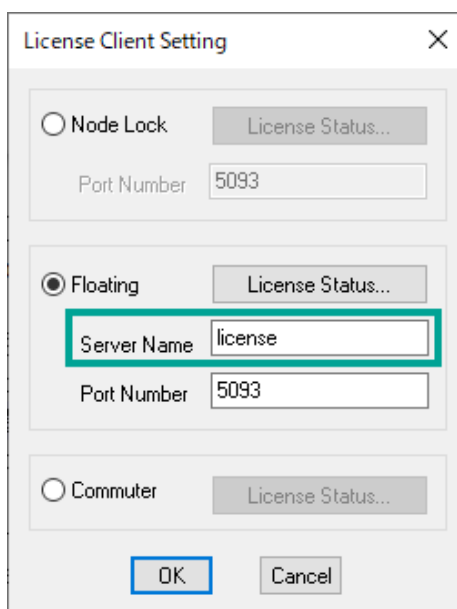
サーバー側で実施することは特にありません。

クライアント側

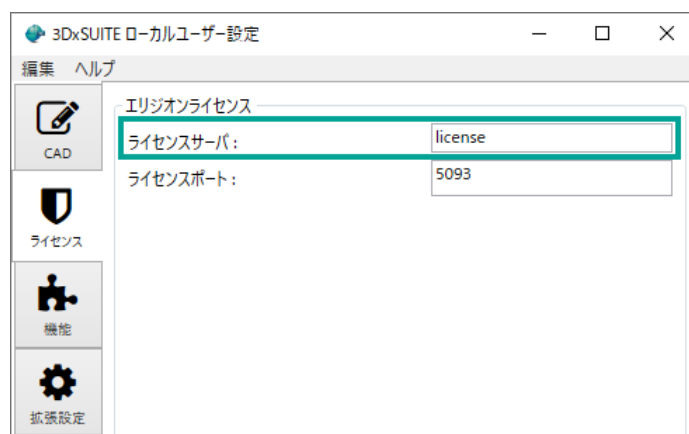
クライアント側で指定しているライセンスサーバーの動作するコンピュータのホスト名を変更します。

- InfiPoints / CADdoctor for NX の場合

「License Client Setting」ダイアログから Server Name を変更してください。



- 3DxSUITE Editor / SmartLauncher 等、3DxSUITE ユーザー共通設定 / 3DxSUITE ローカルユーザー設定でライセンス設定が可能な製品の場合
3DxSUITE ユーザー共通設定 / 3DxSUITE ローカルユーザー設定の [ライセンス] タブで「ライセンスサーバー」を変更してください。



なお、ライセンスサーバーの動作するコンピューターのホスト名を変更した場合には、DNS が当該コンピューターの IP アドレスを正しく応答するようになっていることを確認してください。（参考: [名前解決](#)）

また、名前を変更した直後には、クライアント側で DNS のキャッシュを削除する必要があります。コマンドプロンプトから `ipconfig /flushdns` を実行してください。

名前解決が行えない場合には、一時的に「Server Name」に IP アドレスを入力してアプリケーションが起動できるかをお試しく下さい。

Q3. クイックスタートガイドに従いライセンスサーバーのログファイルを出力する設定を行いましたでしたが、ログが作成されません。ライセンスサーバー (**Sentinel RMS License Manager**) は起動しています。

以下の点を確認してください。

- 環境変数 `LSERVOPTS` は、ユーザー環境変数ではなくシステム環境変数に設定する必要があります。設定先が正しいか確認してください。
- 環境変数設定後に、ライセンスサーバー (**Sentinel RMS License Manager**) の再起動を行う必要があります。再起動を行っていない場合は行ってください。

Q4. クイックスタートガイドに従いライセンスサーバーのログファイルを出力する設定を行ったところライセンスサーバー (**Sentinel RMS License Manager**) が起動しなくなりました。

環境変数 `LSERVOPTS` の値の指定が正しくないか、引数 `-l` で指定したパスにファイルが作成できない場合、ライセンスサーバーの起動に失敗します。以下の点に注意し値の修正を行うか環境変数の削除を行い、ライセンスサーバーの再起動を行ってください。

- `-l` は小文字の `L` です。
- `-l` とパスの間に半角スペースを入れてください。
- 指定するログファイルのパスに空白を含む場合、パスをダブルクォーテーション `"` で囲う必要があります。
- 指定したフォルダーが存在しており、かつ指定したファイルに書き込むことができる必要があります。

7. Appendix

Appendix1. Windows Defender ファイアウォール でのポート開放手順

1. 「セキュリティが強化された Windows Defender ファイアウォール」ダイアログを開きます。
 - i. Windows キー + R キー を押し、「ファイル名を指定して実行」ダイアログを開きます。
 - ii. "wf.msc"と入力して[OK]ボタンをクリックします。
2. 左側のツリーから [受信の規則] を選択し、続いて画面右のペインにある "新しい規則" を選択します。
3. 「新規の受信の規則ウィザード」ウインドウの、「規則の種類」のステップで「ポート」を選択し、[次へ]を選択します。
4. 「プロトコルおよびポート」のステップで、「UDP」を選択し、続いて「特定のローカルポート」に 5093 と入力して [次へ] を選択します。
5. 「操作」のステップでは「接続を許可する」を選択したまま [次へ] を選択します。
6. 「プロファイル」のステップでは「ドメイン」と「プライベート」をチェックし、「パブリック」のチェックは外して [次へ] を選択します。
7. 「名前」のステップで任意のルール名を設定して [完了] を選択します。

Appendix2. DNS が利用可能な環境での名前解決の確認方法

下記の操作でそれぞれライセンスサーバーの動作するコンピューターの IP アドレスが表示されます。同じ IP アドレスが得られる場合は問題ありません。取得される IP アドレスが異なる場合は、お客様の会社でネットワークを管理されている方にご相談いただき、ライセンスサーバーの動作するコンピューターの IP アドレスが正しく取得されるようにしてください。

- a. ライセンスサーバーの動作するコンピューター上でコマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行します。

```
ipconfig
```

- b. クライアントコンピューター上でコマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行します。

```
nslookup <ライセンスサーバーのホスト名>
```

本コンテンツに関わる著作権は株式会社エリジオンもしくは原権利者に帰属しています。
著作権者の承諾なしに無断で改変、複製、転載、再配布、転送、公衆送信、販売、貸与などの
行為をすることは禁じられています。